

散策所要時間：約1時間30分



① 櫛権左衛門 石碑



② 首なし地蔵



③ 水害石碑



④ 郷学由学館跡



⑤ 軍団の跡



⑥ 田安陣屋長屋門



⑦ 一澤山極法寺



⑧ 都塚 (とづか)



⑨ 京塚「経塚」きょうづか

地域再発見

一宮町 下矢作・小城・北都塚地区

ウォーキングマップ

しもやはぎ 下矢作

古代の地名の遺称で、弓の矢を作っていた矢作部（やはぎべ）集落と伝えられている。現在は上矢作、下矢作に分かれる

① 櫛権左衛門（くぬぎごんざえもん）（櫛命啓くぬぎながひろ）石碑

江戸時代後期の書家。寛政3年(1791年)下矢作村に生まれた。能書で知られた祖父の櫛小左衛門に習い、技量は親をもしのぐといわれる。村の弟子に教えた。天保13年(1842年)10月死去。号は如水亭。

② 首なし地蔵（くびなしじぞう）

願い事が千倍叶うと言われ、戦前は春の彼岸に祭が行われ子供たちが健やかに育つよう願い、命の尊さを教え御供物を供えていた。ともに並ぶ右の石碑には地蔵への感謝が込められた内容が記してある。

③ 水害石碑（すいがいせきひ）

明治40年の豪雨で御手洗川（みたらしがわ）は土石流で決壊し、近藤家の経営する製糸工場は流失した。当家12代目に当たる近藤林右衛門朝純が、その情景を流れてきた石に刻んだものである。碑文は掛け軸としてもある。

こじょう 小城

甲州街道脇往還（現：東西の県道）と、道者街道・鎌倉道（現：南北の市道）が交差し賑わっていたと伝えられる

④ 郷学由学館跡（ごうがくゆうがくかんあと）

田中の代官小島蕉園が、太榎事件で対立する民衆教化を目指し、石和代官の指導を得て文化6年(1809年)ここに創設。初代教授は上矢作の小池琴河（きんが、本名正俊）、教授内容は高レベルで習字、漢籍、剣道、詩文など。

⑤ 軍団の跡（ぐんだんのあと）

王朝（奈良・平安）時代の遺跡である。「上下矢作の間に小城村があり説に古時毎郡に軍団兵庫を建て不慮備えらる。この遺基わずかに存したるを後人呼びて城といい遂に村名となす。」衛士（えじ）防人（さきもり）なども課せられた。

⑥ 田安陣屋長屋門（たやすじんやながやもん）

上小城有馬家の表の長屋門として現存。明治初期、往時の一町田中の田安代官所の廃止により移築。棟瓦は三つ葉葵の紋入り、扉も往時の名残を留め配下の村々の名主達が代官所に入出入りした情景が目につく。

きたみやこづか 北都塚

都塚とは、京の警護にあたって亡くなった兵士を祀った「都塚（とづか）さん」という祠（ほくら）に由来する

⑦ 極法寺（ごくほうじ）

阿弥陀如来を御本尊とする浄土真宗大谷派の末寺で、寛永年間に真言宗を改宗して開山。前身は、都塚院で西暦597年に聖徳太子像を安置するために建立され、その木像が現存している。

⑧ 都塚（とづか）

本来は「みやけ塚」で「屯倉（みやけ）」がおかれていたのでこの名称があると言われている。また、王朝時代には京の警護にあたって亡くなった兵士を祀った「都人塚（みやこびとづか）」、後世に「都塚（とづか）さん」と呼ばれ親しまれている。

⑨ 京塚「経塚」（きょうづか）

田村政仁氏の宅地の一角にある。古代ある官人が亡くなって当地に葬られて以後、ここを通った官人は必ずこの塚で一石に一字を書いて供養したと伝えられており、「水」「佛」と書かれた小石を田村家では所蔵している。